

「5 カ年計画 2016-2020」 の概要



J A N S I
Japan Nuclear Safety
Institute

2016 年 7 月

一般社団法人
原子力安全推進協会

原子力安全推進協会 5 ヶ年計画の改訂にあたって

JANSI は、2011 年 3 月に発生した福島第一原子力発電所事故のような外部への大量放射性物質放出を伴う過酷事故を二度と起こしてはならない、という日本の原子力産業界の総意に基づいて 2012 年 11 月に発足した。事故から 5 年が経過したが、依然として多くの住民の方々が避難先から帰還できない遺憾な状況が継続している。原子力を巡る環境は極めて厳しい。

JANSI が発足準備を急いでいる 2012 年 9 月に原子力規制委員会（NRA）が設立され、翌 2013 年 7 月に新規制基準が制定された。このような状況の中で、早期の再稼働を想定して JANSI はそのミッションを効果的に果たすため、過酷事故防止を主眼とした国際的視野の安全性向上策の提言、ピアレビュー能力の向上と実施、及びその推進のための基盤的支援に事業の重点を置いた『5 ヶ年計画 2013-2017』を 2014 年 1 月に策定した。また 5 ヶ年の中間点（2015 年度）で状況判断し、改訂を行うこととしていた。

発電所の停止が長期化しているという環境の変化に関して、JANSI はその重大さを適切に認識することができなかった。また、ピアレビュー能力の向上においても予定通りの効果を十分に上げることができなかった。INPO のギャップアセスメントでは上記の課題を含め、「自主規制組織として十分な成果を上げていない」という厳しい評価を受けた。この評価結果は、改めて JANSI の活動のあり方について、事業者と議論を積み重ねることによって原点から見つめ直し、抜本的改善を図る貴重な契機となった。JANSI は、指摘のあった「セーフティ フォーカス」、「リーダーシップ」、「オーバーサイト」、「ガバナンス」の本質的向上を図るため、理事会、CEO 会議、CNO 会議をはじめ、組織全般の構造と機能の改善に 2015 年度全期間をかけて取り組んだ。

特に職員各自と組織全体の活動に明確な目標を示すため、改めて『JANSI の活動規範』と『自主規制組織として JANSI が目指す姿』を INPO 指摘事項への対応の集大成として制定した。『活動規範』は厳しい状況に直面しつつ努力する人間の「人としての良きあり方」と「JANSI 職員が共有すべき規範」を示し、また『目指す姿』では原子力安全の継続的向上を目指す自主規制組織の活動達成目標と基準を示した。

今般の改訂 5 ヶ年計画の策定作業途上では、再三にわたり事業者の方々と率直な意見交換がなされたと理解する。JANSI はその基盤的能力、即ちピアレビュー能力を着実に向上させつつ、安全性向上の将来展望能力を強化させながら、環境変化に応じて事業計画を迅速・柔軟に調整し、事業者の安全性向上志向の要請にこたえなければならない。この改訂 5 ヶ年計画をそのための強靱で柔軟な設計書として提示したい。

先に述べた『活動規範』、『目指す姿』を日常に省み、その本旨を活かし、JANSI 役職員一同が互いに切磋琢磨しつつ、改訂『5 ヶ年計画 2016-2020』を最も効果的に達成することを目指したい。

2016 年 3 月

一般社団法人 原子力安全推進協会
代表兼理事長 松 浦 祥 次 郎

目 次

原子力安全推進協会 5 年計画の改訂にあたって	i
I. 5 年計画 2016-2020 について	2
II. JANSI の進むべき道	2
III. 活動方針と運営方針	3
IV. JANSI 職員の人材育成	4
V. JANSI の組織運営	4
VI. JANSI 活動の実行	6
VII. 外部組織への対応方針	10
(参 考)	
◆「JANSI の活動規範」の概要	11
◆「自主規制組織として JANSI が目指す姿」の概要	11

I. 5 年計画 2016-2020 について

原子力安全推進協会（以下、「JANSI」）は、前 5 年計画 2013-2017（2014 年 1 月制定）において、TMI 事故後に設立された米国原子力発電運転協会（以下、「INPO」という）の活動を参考に、遅くとも 5 年後までに JANSI のすべての活動を本格的な軌道に乗せるという目標を掲げ、事業を進めてきました。しかしながら、支援を受けている INPO による Gap Assessment（2015 年 2 月～3 月）（以下、「INPO Gap アセス」という）等において厳しい評価を受けるなど、これまでのところ自主規制組織として十分な成果を上げてきたとは言いがたく、この目標に対して計画通りの進捗を果たしている状況ではありません。

そこで、本改訂版は、前 5 年計画 2013-2017 の単なる見直しではなく、2016 年度～2020 年度を対象期間とした 5 年計画 2016-2020 として、JANSI の覚悟と姿勢を実行する位置付けとして新たに策定しました。

なお、本 5 年計画は、2016 年 3 月に策定した計画について、2016 年 7 月に組織改編を実施したことなどを反映し、一部見直しを行ったものです。

II. JANSI の進むべき道

原子力産業界は、重大な原子力事故を二度と起こさないためには、事業者が自主的・継続的に安全性向上に取り組み、その時点での世界最高水準の安全性（エクセレンス）を達成できるよう努力するとともに、さらに高みを目指して自らエクセレンスを生み出すよう努力していく（この二つを総称して「エクセレンスの追求」という）必要があると認識しました。このため、原子力産業界は、原子力施設の安全性をより高めるために、第三者機関にそれを牽引させる仕組み（自主規制組織）を作ることとし、新たに JANSI を設立してその役割を担わせました。

JANSI は、事業者の原子力安全向上への継続的な取組みが実効的かつ効率的になされることを確実にするために、以下の通り JANSI の進むべき道としてミッション（経営理念）を定め、ミッションを達成するための未来図としてビジョンを定めています。

1. ミッション（経営理念）

JANSI は、日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求（～たゆまぬエクセレンスの追求～）を確実なものとするため、原子力事業者の自主的継続的安全性向上活動を牽引する。

2. ビジョン（ミッション達成のための未来図）

JANSI は、原子力産業界の原子力安全確保における自主規制組織として、自らを高め、原子力安全における基準となるエクセレンスを明確化し、事業者にエクセレンス追求を求めている。また、原子力施設評価を通じてエクセレンスとのギャップを同定し、必要な支援活動を実行している。

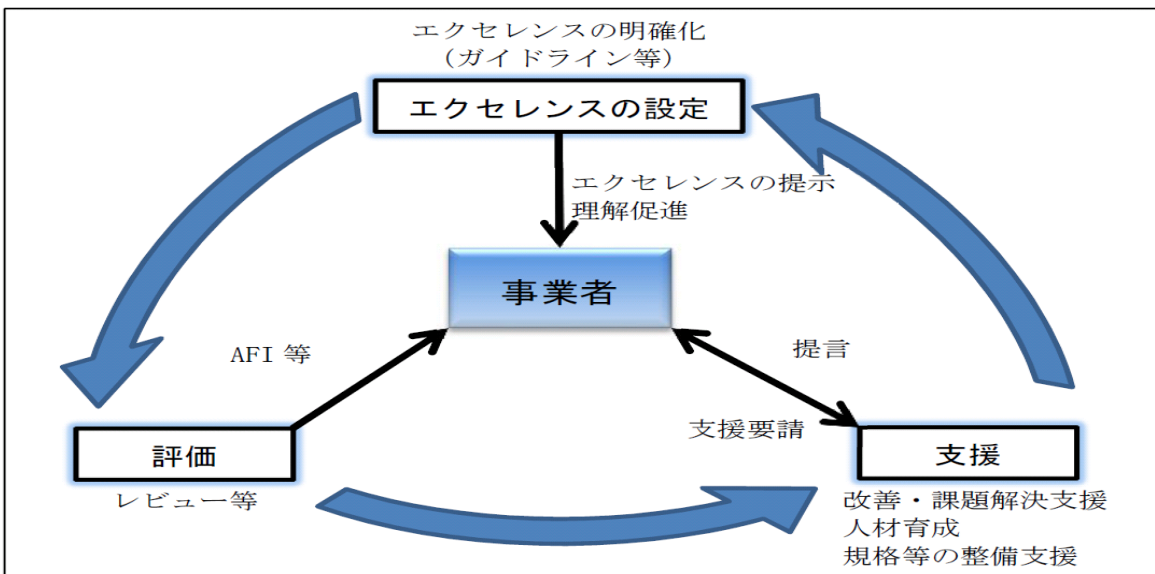
Ⅲ. 活動方針と運営方針

ミッションの遂行及びビジョンの達成のための活動方針と運営方針を以下に示します。

1. 活動方針

JANSI は、設備設計等を含む「安全性向上策」の評価、提言・勧告及び支援¹と、世界原子力発電事業者協会（以下、「WANO」という）や INPO が実施してきた「原子力施設」の評価、提言・勧告及び支援²を二本柱とする活動を進めます。

(1) エクセレンスの設定、評価、支援のサイクルを確立します



(2) ピアプレッシャー 等の活用により改善意欲を刺激します

- 1) 提言・勧告による牽引
- 2) 発電所総合評価システムの活用
- 3) ピアレビューの AFI（要改善事項）の共有
- 4) OE（運転経験）文書に対する改善状況の HP（ホームページ）上への掲載

(3) 原子力産業界の安全文化の向上に取り組みます

- 1) 「同じボートに乗っている」という意識の深化
- 2) リスク評価による意思決定、レジリエントな（安全な状態に回復できる）組織の構築

¹ JANSI は、国内外の安全性向上策に関する最新情報を収集・分析し、各事業者がエクセレンスを目指した取組みを行うよう、原子力安全レベルを引き上げていくための評価と提言・勧告及び支援を行います。

² JANSI は、原子力施設の運営状況を、定期的に行うピアレビューや特定テーマレビューにより確認し、エクセレンスと比較します。その結果を踏まえて、原子力施設の運営状況や設備の状態、安全文化の健全性や改善への取組み具合を評価し、それぞれのレベルを上げるための提言・勧告及び支援を行います。

2. 運営方針

JANSI は、事業者と対等の立場で事業者の自主的・継続的安全性向上活動を牽引します。

- (1) 「JANSI の活動規範」³を実践します。
- (2) 「自主規制組織として JANSI が目指す姿」⁴を追求します。
- (3) 科学的、合理的な情報を積極的に発信します。
- (4) 環境変化に迅速に対応します。

IV. JANSI 職員の人材育成

ミッション達成のために、事業者を指導し、牽引できるレベルまで個々人の力量を向上させると共に、組織内の英知を結集して総合的にプロフェッショナリズムを発揮できるよう、JANSI 内での教育カリキュラムに則り、計画的な技術能力の向上に努めます。また、事業者を指導できるだけの技術能力を持つとともに、技術評価委員などの外部専門家の協力を得て活動するためのシステムを構築します。

1. 体系的な教育システムによる職員の能力向上

力量管理システム、教育カリキュラム等による職員の多能化を推進します。

2. レビュー能力の向上

OE 情報の利用推進、WANO や INPO の活用、ピアレビュー後方支援の強化等を図っていきます。

3. 適正、且つ技術伝承を考慮した要員計画

プロパー比率は 70%を目標とします。レビュー要員（2019 年度半ばには 2 チーム体制、2018 年度末までに要員（44 名）を確保）を整備します。

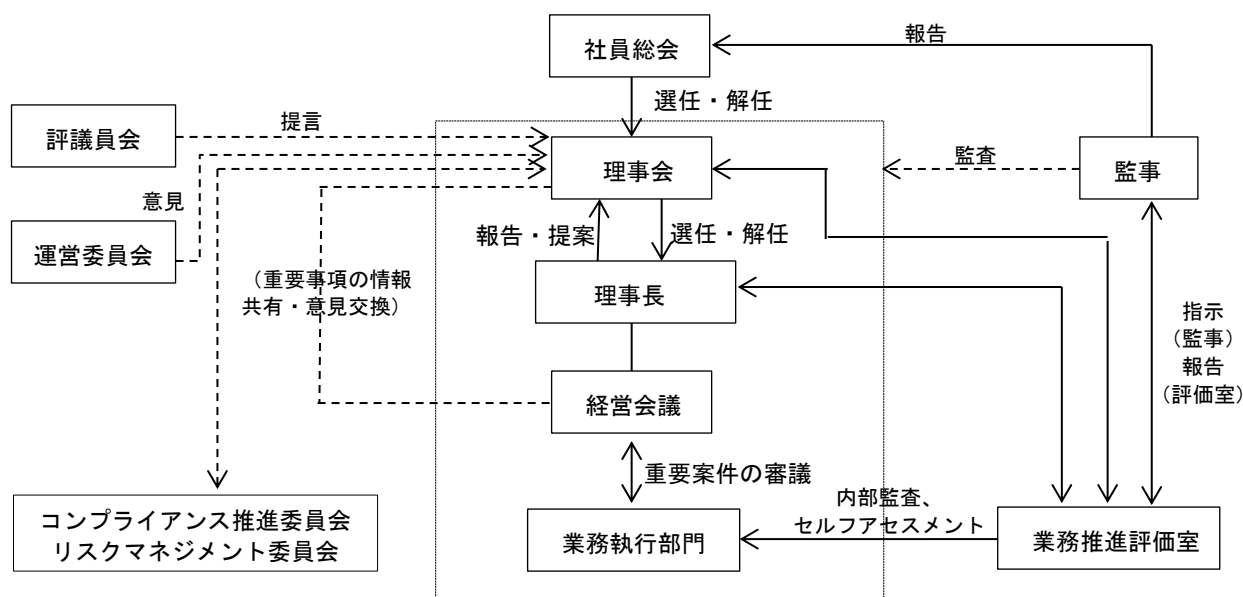
V. JANSI の組織運営

JANSI は、意思決定や戦略策定における JANSI 幹部のリーダーシップを強化するとともに、効率的なマネジメントプロセスを構築することでガバナンスを強化し、JANSI 内部から原子力安全にフォーカスできるような仕組みとします。さらに、JANSI の活動成果を会員にフィードバックするとともに、それらが適切に行われているかをオーバーサイトされる仕組みを構築します。

³ 2015 年 11 月に制定（概要は 11 頁）

⁴ 2016 年 3 月に制定（概要は 11 頁）

1. ガバナンスの強化



- (1) 理事会のガバナンス機能を強化します。
- (2) 内部統制システムを整備します。
- (3) 品質マネジメントシステムを確立します。
- (4) 情報セキュリティマネジメントシステムを導入します。

2. 原子力安全にフォーカスした活動

JANSI のすべての活動は、原子力施設の現場の安全性向上に結び付いてこそ意味があることから、現場で実践されることを重視した活動を展開します。常に外部環境の変化の把握に努め、新知見の収集と分析を行い、それらを事業計画や5ヵ年計画などに迅速に反映するとともに、年度途中であっても必要に応じて適切に業務の優先度を見直します。

3. 活動に対するオーバーサイト

オーバーサイトとは、JANSI の活動が有効に機能し効果的なものになっているかをより高い立場で評価し、必要に応じて改善を要求することです。JANSI は、理事会、特別会員代表者会議及び特別会員原子力責任者会議のオーバーサイト機能が十分に発揮できるよう、これら会議体の位置づけの見直しを行い、オーバーサイト機能をより有効にします。

4. 活動の適正化に関する外部意見の聴取と反映

各種委員会・グループの外部委員の意見を参考にするとともに客観的に評価していただくことにより、JANSI の経営及び活動の実効性を高め、JANSI への国内外の信頼感を高めます。

VI. JANSI 活動の実行

1. 本5ヵ年計画における重点活動

本5ヵ年計画対象期間においては、JANSI の設立主旨や事業者の置かれている状況を踏まえた JANSI 活動の優先度を考慮し、以下の項目を重点活動とします。

(1) 再稼働支援

「原子力安全」、「原子力リスクの低減」の観点から、長期間停止している原子力発電所が安全に再起動することは重要であり、長期停止後の原子力プラントが安全に円滑に再稼働できるように支援を行っていきます。

(2) 質の高いピアレビューの提供

原子力施設の世界最高水準の安全性、信頼性の追求を実現するため、定期的な原子力施設のピアレビューを実施します。INPO、WANO の支援・協力を受けながら、チーム総合力、レビューア一人一人の能力向上の改善を常に図っていきます。

(3) 安全性向上策の推進

事業者とは独立した立場、独自の方法で原子力施設の安全性を評価し、必要に応じて安全性向上策の提言・勧告を行い、それを実現するための支援を行います。

(4) 発電所総合評価システムの構築と運用

発電所総合評価は、仕組みの構築と試行が出来たものから評点付けを段階的に導入することとしており、2016年度より第一段階の運用を開始し、2018年度には最終段階の運用を開始する計画です。

(5) 安全文化の浸透

JANSI は、原子力産業界の自主的な安全文化醸成活動の評価、支援とともに、原子力安全に係る価値の組織的な共有や安全文化を推進するリーダーシップの醸成及び緊急時対応能力の向上を図る研修の実施などにより、安全文化の向上を支援します。

(6) 事業者の技術力の向上

JANSI は、事業者へのエクセレンスの提供や、運転責任者判定業務や保全技量認定業務などによる人材育成の推進・展開により、事業者の技術力の向上に資する活動を行います。

2. 至近の原子力安全にフォーカスした活動

各年度の活動計画を策定するに当たっては、年度毎に「原子力施設の安全性向上」及び「社会から見た原子力リスク低減」の観点で優先活動を選定した年度計画を策定します。2016、2017年度は、上記「(1) 再稼働支援」に特に注力します。

3. JANSI の主要プログラムの概要

JANSI の活動の二本柱(安全性向上策と原子力施設の評価と提言・勧告及び支援)は、以下に示すような様々なプログラムの活動内容を有効的、横断的に活用することによって、期待されるパフォーマンスが発揮できます。ここでは、以下に示す6つのプログラムに整理して記載しますが、それぞれが他のプログラムに関連しています。

(1) 安全システム向上プログラム

1) リスクマネジメント (RM) に関するレビュー体制整備と事業者への支援

JANSI は、RM に関するレビュー体制の構築を推進すると共に、さらなる高みを目指すべく、事業者による RM の推進について、事業者と協議しながら支援していきます。

2) 安全性向上策の評価等

当面は、シビアアクシデント対策及び火災防護対策について評価を進めます。将来的には、設計基準を超えない事象や外部事象への対策など、対象範囲を徐々に拡大していきます。

3) 日本版事業者自主安全評価書 (JSAR)

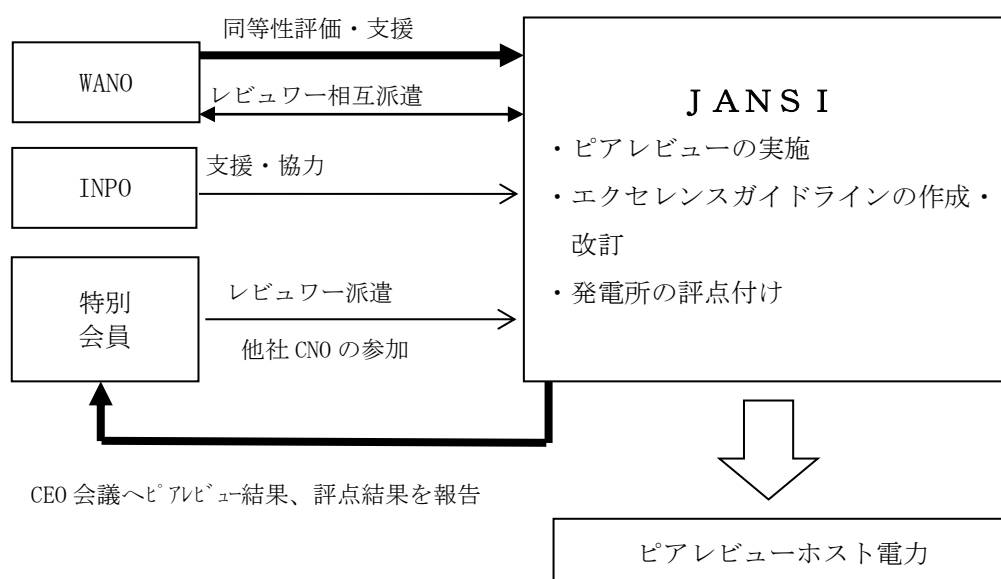
自主的安全性の向上に役立てると共に、許認可関連文書の簡素化への対応、事業者自らの教育等の力量向上・技術伝承等に資する目的で、JSAR の作成を事業者に提案・推進していきます。

(2) 原子力施設評価 (ピアレビュー) プログラム

ピアレビューを、世界標準であり、高い信頼性を持つと共に一貫性のあるものとするため、運転中プラントのピアレビュー経験を積み重ね、レビューー及びレビューチーム、そして JANSI 組織としてのレビュー能力の向上を図り、WANO ピアレビューとの同等性認定をできるだけ早期に取得します。

WANO 東京センターとは引き続き効果的・効率的な連携を図り、相互の能力向上に貢献するとともに、WANO の活動を通じて世界の原子力安全向上にも貢献していきます。

1) 発電事業者のピアレビュー



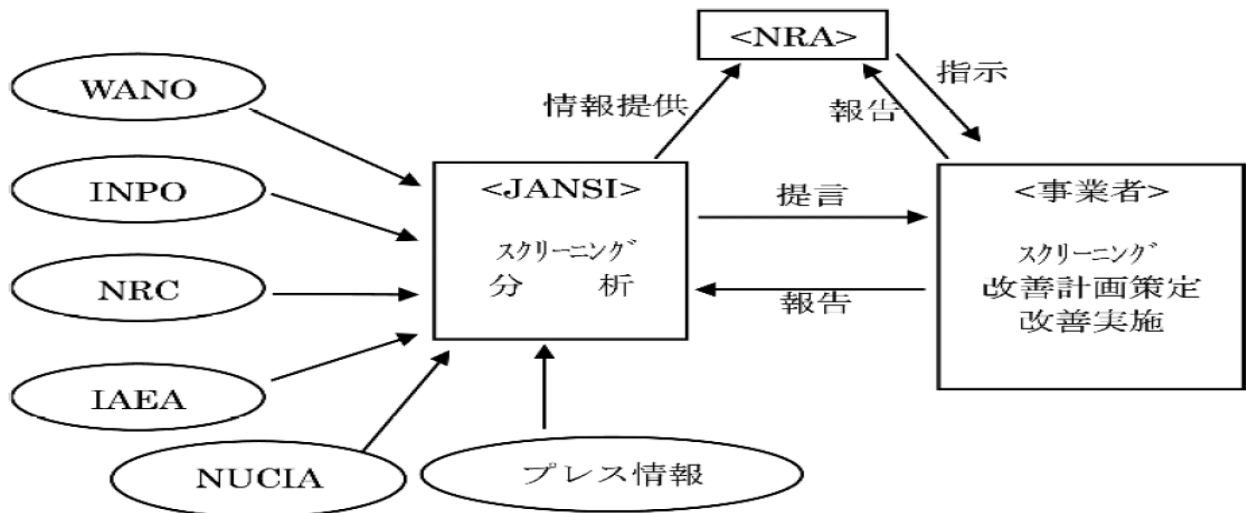
2) その他原子力施設のピアレビュー

日本原燃濃縮・埋設施設やメーカー等ピアレビューのための PO&C（達成目標と基準）を 2017 年度末までに策定します。日本原燃再処理施設のピアレビュー実施に向けたレビュー方法、実施体制を具体化し、操業後、ピアレビューを実施します。メーカー等ピアレビューの実施頻度は業態や規模に応じて継続的に見直します。

(3) 情報活用プログラム

1) OE 情報（運転経験情報）を活用した安全性向上の推進

シビアアクシデントを二度と起こさないという使命の下、OE 情報を利用して原子力発電所の安全性向上を推進します。OE 情報を分析し、トラブル再発防止の徹底を図るため、新たに事業者が取組むべき対策等を取りまとめ、事業者に提示します。また、NUCIA（原子力施設情報公開ライブラリー）に登録された国内の OE 情報に関して、水平展開が必要なものについて、NUCIA を通じて取組を求めています。



(4) 支援プログラム

1) 連絡代表者（SR）を窓口とした支援活動

事業者の行う安全性向上活動に対し、SR を窓口とした事業者支援の仕組み（JANSI 内各部及び事業者が係わる支援体制）を維持・強化し、事業者との連携の下、事業者の安全性向上活動に対する効果的な支援を行います。

2) 特定テーマレビュー

特定テーマのガイドライン等を整備し、特定テーマレビューを行って事業者の安全性・信頼性に係る活動を牽引していきます。

3) 事業者の自主保安活動への支援

事業者の自主保安活動（QMS（品質マネジメントシステム）の実効性やヒューマンパフォーマンスの向上）が継続的に行われるよう支援していきます。

4) 安全文化醸成

安全文化に関する活動は、原子力産業界の自主的な安全文化醸成活動の「評価」と「支援」の二方向で進めます。活動にあたっては、国内他機関（電力中央研究所等）や海外機関（INPO 等）との情報交換を実施するとともに、規制からの自立的立場を

確立しながら規制当局との関係の構築を行います。

5) 防災・緊急時対応

福島第一事故を受け、防災・緊急時の対応計画に基づく各活動が確実に機能するよう熟練度を高め、不測の事態にも対応できる判断力、応用力を養成するために重要な訓練等についての支援を行います。

6) PI（運転実績指標）による事業者運営実績評価等

事業者の自主保安活動の向上に資するため、WANO の原子力発電所の運転性能、安全性、信頼性および労働安全性等に係る PI を用いた国内各事業者の運営実績評価を行い、結果を事業者へ提示することなどで運転実績の向上を支援します。

(5) 人材育成プログラム

原子力安全を確保するために必要な力量として、強いリーダーシップで安全を守る「意識」と、平常時から深層防護を深く理解し、非常時にあつては縦横無尽に設備を操る「知識・技量」の両方が必要であり、JANSI はこの双方の力量向上のため、順次人材育成のエクセレンス設定、評価、支援のサイクルを確立し、これらの活動を実施していきます。

1) 事業者の意識面の力量向上

意識面の力量は、事業者の組織文化の共通基盤と考えられることから、JANSI が主体的に、事業者の各レベルに必要な力量を洗い出し、それに対する「気づき」を得られる場として、リーダーシップ研修を順次開発し実施します。引き続き、対象とする階層を拡大するとともに研修成果の有効性評価に基づきプログラムの改善を図ります。

2) 事業者の知識・技量面の力量向上

知識・技量面の力量は、事業者が自社の設備・体制の特徴に応じて育成すべきものであり、JANSI は基本事項を共通のガイドラインとして提示し、レビュー等を通じて各社の状況を適宜確認する仕組みを目指します。現在、運転責任者判定や保全技量認定を通じて、これらの力量の一部を確認していますが、知識・技量面の力量を網羅的に確保する仕組みとはなっていないため、海外の指針・ガイドライン等を参考に、日本独自の設備・体制を踏まえてガイドライン化していきます。

(6) 基盤強化プログラム

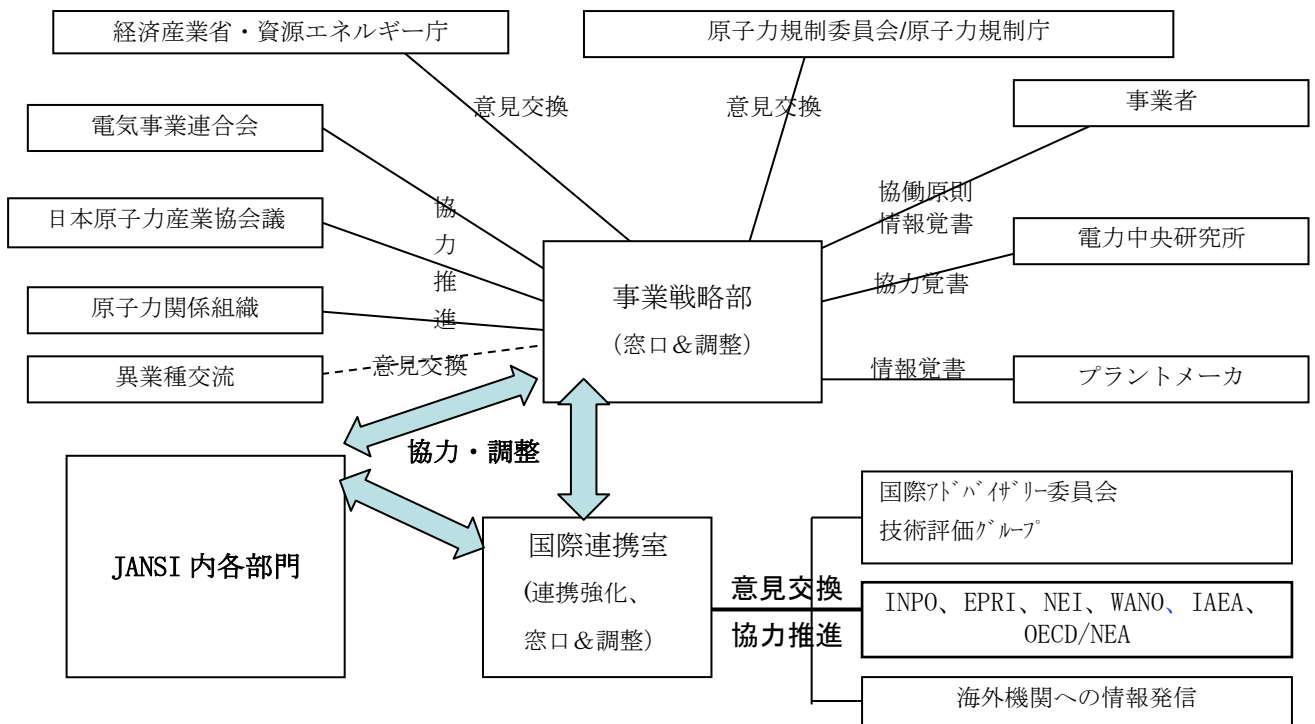
事業者の安全性・信頼性向上活動につながる産業界の知恵を集めて体系的に文書化又はデータベース化したナレッジマネジメントとして、規格・標準の整備、電力共通保全技術基盤の整備に取り組みます。

これらは、JANSI のミッション達成のための有力なツールの一つであり、また JANSI の活動を支える重要な技術基盤として位置付けられます。

JANSI としては、自主ガイドラインを策定するとともに、規格・基準策定の中核をなす学協会の活動に積極的に参加してその活動に主導的な役割を果たしていきます。

VII. 外部組織への対応方針

原子力産業界が原子力安全にフォーカスできるように、事業者及び産業界のステークホルダーとの協働関係を強化し、JANSI 及び事業者のトップがリーダーシップを発揮できるような仕組みを構築します。また、原子力規制委員会、原子力規制庁、経済産業省・資源エネルギー庁との意見交換、電力中央研究所、電気事業連合会、日本原子力産業協会との協力推進、海外機関・専門家との連携強化に取り組みます。



以上

参 考

◆「JANSIの活動規範」の概要

1. JANSIのミッション
2. JANSIの存在意義
原子力産業界の自主規制組織として原子力施設の安全性向上に貢献
3. 存在意義の実現のための価値観
4. 価値観に基づいて職員が実践すべき行動/姿勢
 - (1) エクセレンスの追求
 - (2) 独立した立場で厳しい評価
 - (3) コミュニケーションを密にした支援
 - (4) プロフェッショナルリズムの発揮

◆「自主規制組織としてJANSIが目指す姿」の概要

I. 基本原則

JANSIは、事業者及び規制当局から独立した仕組み・体制を構築し、「原子力安全におけるエクセレンスを事業者とともに追求し、その成果が原子力安全の向上に資する活動（原子力安全にフォーカスした活動）」を行います。

II. リーダーシップ

JANSIは、事業者が安全運転や緊急時対応における継続的改善を自主的に実行し、原子力業界全体が安全文化を高めるよう、組織として、また、職員一人ひとりが強いリーダーシップを発揮します。

III. 組織の統制（ガバナンス）

JANSIは、高い規範をもって組織を運営（マネジメント）します。JANSIは、組織の目的に鑑みて行われる運営状況についてオーバーサイトを受け、その結果を活動に反映します。JANSIは、組織が健全に機能しているかどうかの観点から行われる監査（外部監査及び内部監査）を受け、その結果を活動に反映します。JANSIはこれらの活動を真摯に実施することにより、すべての利害関係者から尊敬と信頼を得ていきます。

IV. 柱となる活動

JANSIの活動は、「安全性向上対策」の評価、提言・勧告及び支援とピアレビューによる「原子力施設」の評価、提言・勧告及び支援の二本柱、及び、この二本柱を支える基盤活動で構成されます。活動に当たっては、事業者に対する評価と支援のサイクルを効果的かつ時宜を得て回していきます。

V. コミュニケーション

JANSIは、ミッションを達成するため、積極的なコミュニケーションを実施します。特に事業者とは積極的かつ適切なコミュニケーションを実施し、得られた情報を方針の策定・変更等の意思決定に活用します。

VI. JANSIの人材確保及び育成

JANSIは、活動の中で技術的能力や存在価値を実証することで事業者からの強い信頼を得るため、力量があり、運転経験豊富な職員を継続して雇用します。また、原子力安全に影響を与え、その向上に資する知識、技能、態度・振る舞い、実践例などに常に組織として精通し、評価・支

援活動に活用できるよう適切な人材を確保及び育成します。